



大黒頭巾形兜 徳川家綱寄進

目 次

博物館のあゆみ

昭和 63 年度	2
平成元年度	7
博物館の名品	12

博物館のあゆみ

昭和63年度

館内業務

1. 特別展

○久能山東照宮の文化財展

会期＝昭和63年4月1日～6月30日

館蔵の刀剣・甲冑・染織・調度・書画の優品を展示。新収蔵の山下一郎コレクションのうち、勝海舟、山岡鉄舟、江川坦庵等の書蹟20点余も公開。

○特別展「徳川家康の遺品」

会期＝昭和63年7月1日～9月30日

館蔵の家康遺品約70点を展示。

○特別展「久能山東照宮の名宝」

会期＝昭和64（平成元）年1月1日～3月31日

館蔵の重文金陀美具足、重文太刀銘国宗、国宝糸巻太刀拵等70点余を展示。

2. 第1回親子教室『徳川家康を語る』

期日・昭和63年7月31日

内容・講話(1)「家康の一生」（講師 松浦館長）

講話(2)「家康の生活と文化」（講師 小林学芸主任）

社殿及博物館の見学

静岡市教育委員会後援のもとに開催。参加者は静岡市、清水市在住の小学五・六年生とその父母で、39組81名。

3. 資料の寄贈

昭和63年9月18日、中津川市の山田真平氏より大鈴（元禄期）1箇の寄贈を受けた。

4. 資料の購入

平成元年3月26日、京都思文閣より精姫（徳川家慶養女）筆『真砂の数』1巻と和歌短冊「幾としも云々」1幅を購入した。

5. 甲冑の修復

昭和63年6月13日～11月4日、鎧司小沢正実氏に依頼し、白絲威具足（6代将軍 家宣所用）と紅絲威具足（代末詳）を修復した。

6. 「館報第10号」の発刊

昭和63年6月30日、昭和61・62年度の事業報告と博物館の名品を紹介した「館報第10号」を発刊した。

館外業務

1. 資料の出品

○「徳川慶喜と静岡展」

会期・昭和63年3月4日～4月3日

会場・駿府博物館

徳川慶喜像（油彩・写真），卯花威胴丸等27件を出品。

○春季特別展「久能山東照宮の文化財」

会期・昭和63年4月8日～5月8日

会場・犬山市文化史料館

国宝太刀銘真恒，重文太刀無銘光世，重文金陀美具足，重文洋時計等47件を出品。

○「日本・中国・朝鮮に見る16世紀の美術展」

会期・昭和63年4月26日～5月29日

会場・大阪市立美術館

重文歯朶具足・耳盥・手拭掛・けひきばし・七宝燭台を出品。

○「戦国時代の武将と茶人の手紙展」

会期・昭和63年7月23日～9月4日

会場・勸業館博物館

徳川家康自筆覚書，織田信長黒印状，豊臣秀吉朱印状，徳川秀忠自筆書状，織田信雄覚書等12点を出品。

○「大名美術展」

会期・昭和63年10月30日～平成元年1月22日

会場・米国ワシントン・ナショナル・ギャラリー新館

重文歯朶具足，貫衆具足（4代将軍家綱寄進），縹絲威具足（伝12代将軍家慶所用），紅絲威具足（代未詳）を出品。

○特別展「自然への憧憬」

会期・昭和63年10月25日～11月23日

会場・名古屋城天守閣

重文香具箱・蒔絵硯箱・冠桶と箆，腰桶，歯朶前立付兜（2頭），黒白羅紗陣羽織を出品。

○「SUNPU 博 89」

会期・平成元年3月18日～5月21日

会場・駿府館

紅絲威具足（代未詳）を出品。

○特別展「七宝」

会期・平成元年3月18日～4月16日

会場・名古屋市博物館

重文七宝燭台を出品

○日蘭修好 380 周年記念特別展「波涛万里を越えて一日蘭交流の歩み」

会期・平成元年3月19日～4月18日

会場・堺市博物館

重文目器・金銀象嵌けひきばし・びいどろ薬壺（2箇）を出品。

2. 静岡県博物館協会総会

期日・昭和63年5月19日

会場・静岡県立美術館

昭和63年度総会が開催され，松浦館長，小林学芸主任が出席。席上，松浦館長が会長に再任された。

3. 静岡県博物館協会創立20周年記念事業委員会

(a)期日・昭和63年6月22日

- (b)期日・昭和63年 9 月29日
会場・静岡県立美術館
松浦館長が出席。(b)には小林学芸主任も出席。
4. 静岡県博物館協会創立20周年記念実行委員会
(a)期日・昭和63年 7 月27日
(b)期日・昭和63年 8 月30日
(c)期日・平成元年 1 月24日
会場・静岡県立美術館
近世部門の実行委員に選出された小林学芸主任が出席。
5. 東海地区博物館連絡協議会総会
期日・昭和63年 6 月16日～17日
会場・名古屋市 王山会館
昭和63年度総会が開催され、小林学芸主任が出席。
6. 全国博物館大会
期日・昭和63年11月10日～12日
会場・宇都宮市
第36回大会が開催され、松浦館長、小林学芸主任が出席。
7. 静岡県文化財保存協会総会
期日・昭和63年 6 月10日
会場・静岡県立中央図書館
昭和63年度総会が開催され、松浦館長、小林学芸主任が出席。
8. 文化財講座「丸子・藤枝」
期日・昭和63年12月 7 日
視察地・丸子城跡、片桐且元夫妻墓、柴屋寺、藤枝市立郷土博物館等。
静岡県文化財保存協会主催で開催され、小林学芸主任が参加。
9. 学芸職員総会
期日・昭和63年 6 月23日
会場・静岡県立美術館
第 2 回総会が開催され、小林学芸主任が出席。
10. 学芸職員研究集会
(a)期日・昭和63年10月26日
会場・静岡県立美術館
(b)期日・昭和63年12月13日
会場・榑佐野美術館
静岡県博物館協会主催で開催され、小林学芸主任が出席。

庶務報告

1. 昭和63年度入館者状況

区分 月	大人	小人	団体	ロープウェイ と共通	クーポン	無料	計
4月	6,116	1,099	2,792	934	478	170	11,589
5月	8,774	2,075	4,133	1,644	756	103	17,485
6月	3,983	226	2,151	780	351	237	7,728
7月	4,947	801	880	1,309	385	244	8,566
8月	8,766	3,546	836	3,049	811	241	17,249
9月	4,256	190	1,319	1,108	432	179	7,484
10月	6,578	711	4,507	1,645	790	160	14,391
11月	6,407	511	3,628	1,692	667	324	13,229
12月	3,089	316	698	846	185	65	5,199
1月	8,540	1,745	550	3,226	381	81	14,523
2月	6,236	720	674	1,969	511	136	10,246
3月	8,702	1,499	2,123	2,535	775	135	15,769
計	76,394	13,439	24,291	20,737	6,522	2,075	143,458

2. その他

- 4月20日 NHK静岡が重文洋時計を撮影。
- 4月22日 「敦煌・西夏王国展」(於静岡県立美術館)の開会式に松浦館長,小林学芸主任が出席。
- 4月25日～26日 「久能山東照宮の文化財展」(於犬山市文化史料館)を松浦館長,小林学芸主任が視察。
- 5月13日 イーストが重文鉛筆を取材,撮影。
- 6月2日 「メトロポリタン美術館名作展」(於静岡県立美術館)の開会式に小林学芸主任が出席。
- 6月23日～24日 日本博物館協会の評議員会及び私立館長会議(於尚友会館)に松浦館長が出席。
- 7月2日,8月7日,9月11日,10月10日,12月4日,2月5日及び3月12日 臨済寺史編纂研究会に小林学芸主任が出席。
- 7月2日 SBSラジオが重文洋時計を取材。
- 7月11日 展示室の冷房装置を修理。
- 7月19日及び8月15日 静岡県文化財保存協会の会報編集会議に小林学芸主任が出席。
- 7月26日 静岡県博物館協会の研究会委員会(於静岡県立美術館)に小林学芸主任が出席。
- 8月24日 テレビマニユニオンが重文火縄銃,甲冑を撮影。
- 9月12日 静岡県博物館協会の研究会打ち合わせ会議(於静岡県立美術館)に小林学芸主任が出席。

- 9月21日 S B S 静岡放送が重文薬道具を撮影。
- 9月23日 「ブラック展」(於静岡県立美術館)の開会式に松浦館長が出席。
- 10月1日 徳川美術館新館開館1周年記念式に小林学芸主任が出席。
- 10月7日 テレビ静岡が重文脇息と冠桶を撮影。
- 10月22日 「国吉康雄と近代絵画の巨匠展」(於常葉美術館)の開会式に松浦館長が出席。
- 11月3日 「近代日本彫刻の歩み展」(於静岡県立美術館)の開会式に松浦館長が出席。
- 11月5日 静岡永田グループ創立記念で小林学芸主任が講演。
- 11月27日 テレビ静岡が重文洋時計・鉛筆・目器・金陀美兜を撮影。
- 12月10日 ㈱オフィス・トゥーワンが重文金陀美兜と家康画像を撮影。
- 12月15日 展示室の冷房装置を取り替えた。
- 1月19日 テレビ静岡が重文和剂局方を撮影。
- 1月23日 ネクサスが重文鉛筆を撮影。
- 1月24日 「大久保婦久子展」(於静岡県立美術館)に松浦館長が招待された。
- 1月26日 防災訓練実施。
- 2月22日 静岡市 SUNPU博89が重文洋時計を録音。
- 2月23日 静岡県博物館協会主催の文化講演会(於焼津市文化センター)に松浦館長、小林学芸主任が参加。
- 2月26日 藤枝市西益津公民館の依頼で小林学芸主任が講演。
- 3月1日 大塚巧藝社写真部が重文洋時計を撮影。
- 3月16日 SUNPU博89内見会に松浦館長、小林学芸主任が出席。
- 3月17日 国立歴史民俗博物館の資料購入評価会に小林学芸主任が出席。
- 3月23日 栗原澄子女史が神宝の茵と枕を調査。
- 3月27日 「カレーの市民(ロダン作)展」(於静岡県立美術館)に松浦館長が招待された。
- その他 この期間に下記の人々が来館した。

三島誠氏(NHK静岡, 4月20日), 木下稔氏(犬山市文化史料館, 4月2日~4日及5月10日~11日), 安本収氏(駿府博物館学芸員, 4月5日, 7月20日及9月7日), 小野真一氏(常葉短大, 4月17日), 小木香氏(浜松市博物館学芸員, 4月18日), 大重薫子氏(大阪市立美術館学芸員, 4月20日及6月4日), 台信徹氏(イースト, 5月13日), 敦煌西夏王国展関係者6名(5月13日), 小沢正実氏(鑑司, 5月30日), 奥出賢治氏(名古屋城天守閣学芸員, 6月3日及10月19日), 赤堀幸男氏(静岡県立大学薬学部教授, 6月4日及11日, 10月12日), 岩崎智氏(テレビ静岡制作部, 8月14日及9月15日), 橋本一夫氏(ヤマト美梱, 8月23日, 10月19日, 11月4日及26日), 野口光一氏(ヤマト美梱, 8月23日), 宇垣正俊氏(日本流通設計代表取締役社長, 8月23日), 長屋寛氏(エコノスタッフ代表取締役, 8月23日), 泉和博氏(I B, 8月23日), 広井雄一氏(文化庁, 8月31日), 佐藤和彦氏(中日新聞東海本社報道部次長, 9月23日), 黒沢脩氏(静岡市立中央図書館, 10月7日, 12月23日, 1月6日, 2月22日及3月14日), 森下武彦氏(静岡市制100周年記念事業委員会, 10月7日), 田村正美氏(サンライト, 10月7日及12月13日), 吉村明子氏(同, 10月7日, 12月13日, 2月22日及3月14日), 岩崎静三氏(永田部品製造人事課長, 10月18日), 鳥部有規彦氏(名古屋城天守閣学芸員補, 10月19日及11月26日), 白鳥知氏(10月27日), 松平乗昌氏(10月28日), 小川幹雄氏(名古屋市博物館学芸員, 10月29日), 三原栄一氏(長浜小学校長, 11月9日), 坂井田雅夫氏(名鉄エージェンシー, 11月15日), 愛媛県公民館関係者12名(11月18日), 杉山茂氏(テレビ静岡, 11月23日及27日), 関国男氏

(文化庁文化普及課専門員, 12月26日), 美濃部昌之氏(テレビ静岡, 1月13日及19日), 海野良雄氏・水野雅敏氏(藤枝市西益津公民館, 1月19日), 桃井隆宏氏(ネクサス, 1月23日), 杉田容章氏(静岡市児童会館, 1月28日), 田村寛康氏・小田誠太郎氏(和歌山県立博物館, 2月2日), 二木謙一氏・西牟田崇生氏(国学院大学, 2月26日), 北見登氏(大塚巧藝社, 3月1日), 長倉智恵雄氏(駿河古城研究会, 3月9日), 神谷浩氏(名古屋市博物館学芸員, 3月11日), 村田和男氏(堺市博物館, 3月13日)。

平成元年度

館内業務

1. 特別展

○特別展「徳川将軍家の武装」

会期＝平成元年7月1日～9月30日

館蔵品の甲冑・軍陣装束・小道具・刀剣を展示。

○特別展「徳川将軍の遺品」

会期＝平成2年1月1日～3月31日

館蔵の国宝太刀銘真恒, 重文太刀無銘光世, 重文歯朶具足等70点余を展示。

2. 第2回親子教室『戦国武将と合戦』

期日・平成元年7月30日

内容・講話(1)「戦国の合戦」(講師 駿府博物館 安本収学芸員)

講話(2)「武将の軍装」(講師 小林学芸主任)

静岡市教育委員会後援, 駿府博物館協力のもとに開催。参加者は静岡市, 清水市在住の小学生とその父母15組。

3. 資料の撮影

平成元年4月26日～28日, 榑大塚巧藝社写真部に依頼し, 新収蔵資料(山下一郎コレクション等)及び修補後の甲冑4領の資料用写真の撮影を行った。

4. 刀剣類定期手入れ

平成元年6月3日, 池田猪太郎氏の手により館蔵刀剣類の定期点検手入れが行われた。

5. 甲冑の修復

平成元年6月28日～11月6日, 鎧司小沢正実氏に依頼し, 紫糸威具足(4代将軍家綱所用)を修復した。

6. 徳川・松平家関係女性資料の調査

平成元年春, 開館25周年記念事業として徳川将軍家, 御三家, 御三卿, 御家門及び大奥(奥)の女性たちの資料調査を実施した。

館外業務

1. 資料の出品

○「SUNPU博89」

会期・平成元年3月18日～5月21日

会場・駿府館

紅糸威具足(代未詳)を出品。

- 特別展「七宝」
会期・平成元年 3 月 18 日～4 月 16 日
会場・名古屋市博物館
重文七宝燭台を出品。
- 日蘭修好 380 周年記念特別展「波涛万里を越えて一日蘭交流の歩み」
会期・平成元年 3 月 19 日～4 月 18 日
会場・堺市博物館
重文目器・金銀象嵌けひきばし・びいどろ薬壺（2 箇）を出品。
- 静岡県博物館協会創立 20 周年記念特別展「静岡県の名宝」
会期・平成元年 6 月 17 日～7 月 16 日
会場・静岡県立美術館
国宝太刀銘真恒（付、絲巻太刀拵）、重文鹵朶具足、東照大権現像、日本風景（油彩）を出品。
- 「静岡県ゆかりの洋画の系譜展」
会期・平成元年 7 月 23 日～8 月 27 日
会場・浜松市美術館
徳川慶喜筆『西洋風景』（油彩）を出品。
- 「室町文化のなかにみる大内文化の遺宝展」
会期・平成元年 8 月 6 日～8 月 16 日
会場・山口県立美術館
重文洋時計を出品。
- 霞会館資料展「開港から攘夷の海」
(1) 会期・平成元年 9 月 9 日～10 月 10 日
会場・神奈川県立博物館
(2) 会期・平成元年 10 月 20 日～11 月 26 日
会場・兵庫県立歴史博物館
徳川慶喜所用軍帽を出品。
- 「初代静岡県知事関口隆吉関係資料展」
会期・平成元年 10 月 18 日～22 日
会場・静岡県立美術館県民ギャラリー
関口隆吉像を出品。
- 「後北条氏と東国文化展」
会期・平成元年 10 月 21 日～11 月 26 日
会場・神奈川県立博物館
重文金陀美具足・火縄銃（付属品共）を出品。
- 「川上冬崖とその周辺展」
会期・平成 2 年 2 月 24 日～3 月 25 日
会場・長野県信濃美術館
徳川慶喜筆の『西洋風景』『日本風景』（油彩）を出品。
- 2. 静岡県博物館協会総会
期日・平成元年 5 月 16 日
会場・静岡県立美術館
平成元年度総会が開催され、松浦館長、小林学芸主任が出席。

3. 静岡県博物館協会創立20周年記念式典
期日・平成元年7月2日
会場・静岡県立美術館
協会創立20周年を祝し、記念式典が行われ、松浦館長、小林学芸主任が出席。席上、小林学芸主任が永年勤続の表彰を受けた。
4. 全国博物館大会
期日・平成元年11月9日～10日
会場・名古屋市電気文化会館
第37回大会が開催され、松浦館長、小林学芸主任が出席。
5. 静岡県文化財保存協会総会
期日・平成元年7月6日
会場・静岡県立中央図書館
平成元年度総会が開催され、松浦館長が出席。
6. 学芸職員研究集会
期日・平成元年12月8日
会場・静岡県立美術館
静岡県博物館協会主催で開催され、松浦館長、小林学芸主任が出席。
7. 静岡県史近世文書の調査
期日・平成2年3月12日～14日
静岡県教育委員会県史編さん室よりの依頼で、当館所蔵の重文位記・宣旨類、徳川家朱印状等の調査に協力した。

庶務報告

1. 平成元年度入館者状況

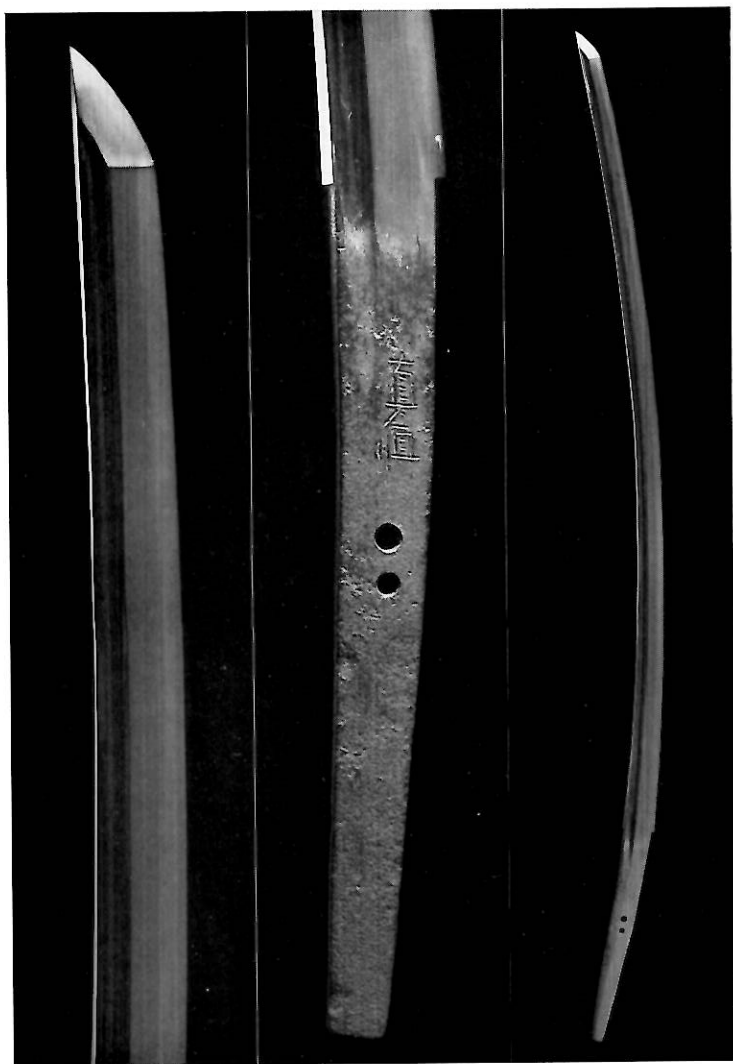
区分 月	大人	小人	団体	ロープウェイと共通	クーポン	無料	計
4月	6,010	1,244	2,304	2,128	468	241	12,395
5月	8,515	1,403	3,256	2,957	762	287	17,180
6月	4,864	193	2,440	1,263	406	386	9,552
7月	4,056	464	817	1,375	339	128	7,179
8月	7,909	2,543	352	4,263	706	60	15,833
9月	5,840	387	1,423	1,825	507	63	10,045
10月	6,589	574	3,608	1,996	725	102	13,594
11月	7,119	644	3,899	2,592	644	117	15,015
12月	3,438	326	594	1,173	609	46	6,186
1月	9,269	1,734	344	3,520	358	94	15,319
2月	6,202	486	952	1,352	280	62	9,334
3月	10,354	1,656	1,151	3,173	869	70	17,273
計	80,165	11,654	21,140	27,617	6,673	1,656	148,905

2. そ の 他

- 4月22日 「狩野派の巨匠たち展」(於静岡県立美術館)の開会式に松浦館長、小林学芸主任が出席。
- 4月30日, 6月4日, 9月2日～3日, 10月22日, 12月10日, 1月21日及び2月25日 臨濟寺史編纂研究会に小林学芸主任が出席。
- 5月22日 S B S 静岡放送が重文洋時計を撮影。
- 5月23日 N H K 芸能部が重文薬事関係資料を撮影。
- 6月17日 「静岡県の名宝展」(於静岡県立美術館)の開会式に松浦館長、小林学芸主任が出席。
- 8月4日～6日 松浦館長、小林学芸主任が山口県立美術館、山口博物館、毛利博物館を視察。
- 8月17日～20日及び22・23日 静鉄ロープウェイ主催の「久能山東照宮の歴史を学ぶ会」が当山で開催。
- 8月18日 静岡県博物館協会の役員会に松浦館長が出席。
- 8月31日 相良町史編纂係長樋口俊成氏等が当館の徳川家朱印状を調査。
- 9月13日 静岡県立中央図書館が関口隆吉像を撮影。
- 9月15日 中日映画社がテレビの取材と資料を撮影。
- 9月25日 展示室の冷房装置を修理。
- 10月20日 「ボヘミアングラス展」(於駿府博物館)の開会式に松浦館長が出席。
- 10月25日 静岡県博物館協会の研究委員会に小林学芸主任が出席。
- 10月27日 静岡県特産功秀会花村収氏他8名が重文脇息・文机等を特別拝観。
- 10月28日 池谷市郎氏が家康文書を特別拝観。
- 11月3日 松浦館長が県知事賞を受けた。
- 11月17日 日本テレビが徳川慶喜所用カメラ・太刀拵を取材、撮影。
- 11月21日 富士吉田市郷土館係長梶原力氏一行が当館を視察。
- 11月28日 東海テレビが重文伽羅を取材・撮影。
- 12月1日 読売新聞記者清水美明氏が重文伽羅を取材。
- 12月6日 清水市袖師公民館の一葉塾で小林学芸主任が講演。
- 12月26日 N H K テレビが松平元康文書を撮影。
- 1月6日 「徳川美術館名品展」(於静岡県立美術館)の開会式に松浦館長、小林学芸主任が出席。
- 2月13日 T B S テレビが重文徳川家康遺品を取材、撮影。
- 2月22日 テレビ東京が東照大権現像を撮影。
- 2月24日 (株)クリエイティブ・フォース制作部が重文洋時計を取材、撮影。
- その他 この期間に下記の人々が来館した。

小曾戸洋氏(北里研究所付属東洋医学史総合研究所長, 4月2日), 広井雄一氏・大塚英明氏(文化庁, 4月7日), 福島恒徳氏(山口県立美術館, 4月11日及8月21日), 福田氏(三島市郷土館, 4月15日), 鶴田孝一氏(大塚巧藝社, 4月17日及26日～28日), 神谷浩氏(名古屋市博物館学芸員, 4月18日), 薄井和男氏(神奈川県立博物館学芸員, 4月18日及11月30日), 鳥居和郎氏(神奈川県立博物館学芸員, 4月18日), 村田和男氏(堺市博物館, 4月21日及12月27日), 小和田哲男氏(静岡大学教授, 4月23日), 長倉智恵雄氏(古城研究会, 4月23日), 北見登氏(大塚巧藝社, 4月26日～28日), 三井智一氏(NHK芸能部)

ロデューサー、5月17日及23日)、藤浦正行氏(MOA美術館学芸員、5月19日)、吉村明子氏(サンライト、5月22日)、寺垣鐵男氏(浜岡原子力館長、5月22日)、森仁史氏・斎藤洋一氏(松戸市教育委員会、5月23日)、小沢正実氏(鑑司、5月26日)、玉虫玲子氏(静岡県立美術館学芸員、6月8日)、橋本一夫氏(ヤマト美樹、6月28日及11月6日)、奥山要三氏(東京ルネッサンス推進委員会、6月28日)、小林義光氏(ジャパン・サイエンス・プランニング、6月28日)、浅井忠氏(時計研究家、7月6日)、水野礼子氏他25名(日本モンキーセンター、7月11日)、河合雅雄氏他22名(日本モンキーセンター、7月13日)、中村邦明氏(浜松市美術館学芸員、7月18日及8月31日)、山下善也氏(静岡県立美術館学芸員、7月20日)、望月真澄氏(身延山宝物館、7月29日)、蒲池廉一郎氏(国学院大学、7月29日)、大場義史氏(近鉄アート館、8月15日)、松平乗昌氏(霞会館、8月28日、12月11日及3月8日)、永隆義氏(中日映画社、8月31日及9月15日)、早川真氏(ボックス、8月31日)、朝比奈豪氏(静岡県立中央図書館次長、9月13日、10月13日及23日)、USAオマハ市一行(10月5日)、大石益光氏(静岡新聞社長、10月9日)、橋本健一郎氏・鈴木良明氏(神奈川県立博物館、10月16日)、石塚氏(SBSプロモーション、10月19日)、守口哲哉氏(中部資材KK主任、11月14日)、福村芳博氏(東海テレビディレクター、11月14日)、羽柴千晶氏(日本テレビディレクター、11月17日)、相澤正彦氏(神奈川県立博物館学芸員、11月30日)、斎藤重雄氏・木俣修氏(コミュニケーション静岡、11月30日)、塚本正実氏・文珠川雅士氏(静岡大学、12月2日)、E・ジェフリ・スタイン氏(米国国際業務部特別補佐、12月2日)、佐藤豊三氏(徳川美術館学芸課長、12月15日及1月23日)、滝澤正幸氏(信濃美術館学芸員、12月22日)、松平千秋氏(柳営会理事長、12月23日)、大久保栄司氏(慶喜公顕彰会事務局長、12月23日)、浦井正明氏(寛永寺執事、12月23日)、岩崎敏明氏(松坂屋催事課長、12月23日)、涌井壮吉氏(ワクイケミカル代表取締役、12月23日)、寺井友秀氏(NHKディレクター、12月26日)、木宮和彦氏(文教委員、1月17日)、小池富雄氏(徳川美術館学芸員、1月23日)、平山豊氏等全国新聞社事業責任者会30名(1月26日)、堤圭三郎氏(京都府教育庁文化財保護課長、2月1日)、愛知県政功労者協会30名(2月1日)、白水正氏・蔽下浩氏(岐阜市歴史博物館、2月7日)、大石尚夫氏(県中部振興センター、2月15日)、桑原裕明氏(同主事、2月15日及26日)、山村仁志氏(信濃美術館学芸員、2月21日及3月28日)、竹川重男氏(福島県立博物館学芸課長、2月21日)、松木孝司氏(クリエイティブ・フォース制作部長、2月24日)女優栗原小巻(2月24日)、宮下和夫氏・岩泉正己氏・堀口明氏(東京ルネッサンス推進委員会、3月8日)、大野瑞男氏(東洋大学教授、3月12日~14日)、新田実氏(静岡県史編さん室、3月12日~13日)、本多隆成氏(静岡大学教授、3月13日)、松本稔章氏(静岡県史編さん室、3月14日)、林義勝氏(日本写真家協会、3月17日)。



博物館の名品 9

国宝 太刀銘真恒 徳川秀忠寄進

鑄造りで、低めの庵棟、腰反り高く踏張がつき、中鋒は鯉風の力強い太刀姿をしている。身長は90cmに近く、身幅も広い。鍛えは板目が細かによくつき、地沸がつき、地斑も入り、淡く映り立つ。刃文は広直刃調に小乱、丁字が交じり、足・葉が繁く入り、小沸がよくつき、匂口が冴える。帽子は小丸。彫物は表裏に棒樋を掻流す。茎は生ぶで、先切とし、鑢目は勝手下り、目釘孔は2つ。作者の真恒は正恒の門と伝え、平安時代末期から鎌倉時代初期に活動した古備前の刀工である。この太刀は長大にして完存の作であり、現存する古備前中の代表作として名物の大包平と双壁をなす。元和3年(1617)2代将軍秀忠が久能山東照社へ進献したもので金沢懸地の桐紋糸巻太刀拵が添えられている。身長89.75cm、反3.8cm、茎長24.0cm。



博物館の名品 10

重文 葵紋蒔絵脇息（徳川家康関係資料）

脇息とは木製の臂掛をいい、時には書物などをのせて読むこともあった。

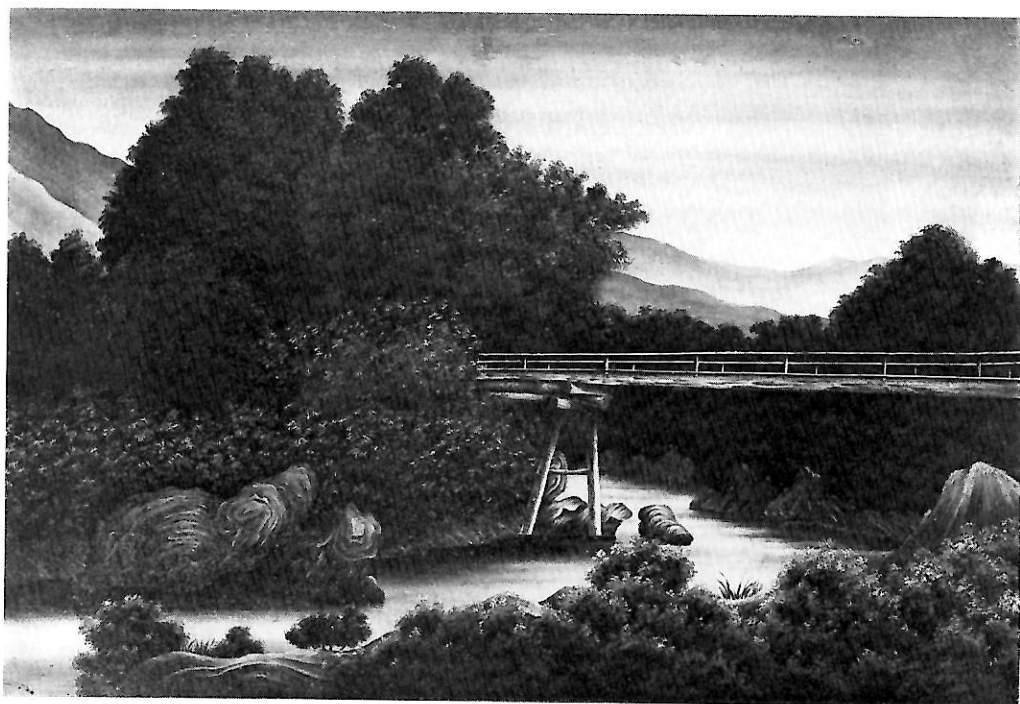
この脇息は桑木製で、総体に拭漆塗した甲板と脚からなる。長方形でやや彎曲した甲板は四隅を丸く切り取り、内側は入角とし、列形の二枚の板脚には葵紋の透しを設け、下端に畳摺板を打ちつけて金時絵の葵紋を散らしている。甲板75.5cm、高26.0cm。



博物館の名品 11

二大字「誠實」 徳川綱吉筆

綱吉は儒教に熱中した将軍として知られ、その遺墨も儒書に基づく大字大幅が多い。本書もその一つで、「誠實」と横に大書し、その左に細字で縦2行に「忠徳之正也」「信徳之固也」と書き、最後に自署し印章を添えている。由来は詳らかでないが、幕府の御匙であった久志本常勝が元禄8年（1695）11月に賜った『誠實云々の語』であろうか。綱吉の書画は諸大名の間で人気があり、前田綱紀は桂昌院を介して『寿老人』の絵を得た喜びを隠しきれず、老臣たちにも拝領画の拝観を許したといわれ、酒井忠挙に至っては「養其性」の書を拝領した宴を催し、老中を招いて盛大に祝っているほどである。絹本墨書。縦51.0cm，横86.3cm



博物館の名品 12

日本風景 徳川慶喜筆

慶喜は一橋家相続時代に狩野探淵に漢画を学び、維新後、静岡に移ってから中島鋏次郎を召して油絵をも学んでいる。当時はキャンバスがなかったので寒冷紗に礬水を引いて代用し、油絵の具も手に入りにくかったので唐の土を荏胡麻油にて溶き、粉絵の具を加えて自ら調製し用いたこともあったという。慶喜の作品には西欧画の模写なども多く伝わるが、この絵は日本の風景を本格的に描いたもので、キャンバスの裏面に印文「慶喜」の正円朱印が押されており、慶喜筆であることを証している。箱書によると、元小姓の小路三造源貫が拝領したものであったが、昭和7年4月、徳川家の有に帰していたことが知られる。

麻布・油彩。縦40.2cm、横59.8cm

久能山東照宮博物館報

— 第 11 号 —

平成 2 年 7 月 10 日 発行

編集発行 久能山東照宮博物館

〒422 静岡市根古屋390

TEL. 0542 (37) 2 4 3 7